

同じ場所で再出発

海と
ともに 4

津波被害を受けた大槌町の吉里吉里海岸から約300坪。金属加工業「山岸産業」で2012年12月14日、大型機械の試運転が行われていた。

全壊した同社は、震災前と同じ場所に再建されたばかり。これで、やっとスタートできる。

金属加工業

山岸千鶴子さん

専務の山岸千鶴子さん(53)は、真新しい工場でホッと息をついた。震災からの日々が去来する。山岸さんは、震災で通信が断絶したことで、家族と連絡が取れなくなった被災者の1人。あの日は宮古市にいた。車で戻る事ができたのは山田町まで。公民館で2日間、眠れぬ夜を過ごした。

11年3月13日。大槌へと向かう国道でようやく携帯電話が通じた。「お母さん！ お母さん！」。

留守電に三女の麻乃さん(24)の絶叫が残っていた。自宅にたどり着くと、兄が泣きながら迎えてくれた。家族と従業員は無事だったが、工場は壊滅状態。注文をキャンセルし、従業員を同業の他社で働かせる手はずを整えるなど奔走する中、父の容体が悪化した。11年6月に止まる直前、父は疲れ切っていた自分をこう励ましてくれた。「俺は助からない病気だけど、それでも頑張る。だから、お前も頑張れ」。

金属加工業は、同じ大槌生まれで社長の夫と27歳の時に始め、19人が働く会社に成長させた。「このままダメになってしまったら、この二十年間の苦労は何だったんだ。元々何もなかったんだから、もう一度最初からやればいいじゃないか」。父の最期の言葉に、山岸さんは奮い立った。

従業員も多くは地元の大槌。同じ土地に住む親を思い、大槌で再起することを決めた。広大な用地を新たに確保すると仮設住宅の建設を妨げると考え、元の場所に新社屋と工場を建てることにした。

完成したのは12年11月15日。その8日後に次女の水江さん(27)が結婚式を挙げた。「泣きました。幸せだった時は、幸せのありがたさが分からなかった」。

海近くでの再出発にはリスクがある。だが、「また一緒に働きたい」と従業員大半が帰ってきた。「家が流された仲間もいる。みんなで支え合っていく」と工場長の倉沢英憲さん(38)は決意を語る。

震災で大槌は動き場を失った。だからこそ、と山岸さんは言う。「私たちがここで頑張る。そうすれば、『自分も大槌で会社を再開しよう』と思う人が現れるかも知れない」。その期待を胸に、総勢15人で今月7日に再び製造を始める。(金子亨)



津波被害を受け、全壊した山岸産業(山岸さん提供)

工場に入った機械の操作法を従業員に尋ねる山岸千鶴子さん(左)(大槌町で)

(金子亨)

震災派 仮設住

東日本大震災的な被害をに兵庫県宝塚にいた男性は、分かった。

同町によ

市整備課の

012年10

3月31日

されてい

城隍南三

いる職員

の家族か

い」と知

人で住む

宮古に

駆つけ

た。

る。ほかに

参院選 民主主義 赤字 なる。

なる。

行丁 長

る。ほかに

きは表面

していい

に駆つけ

た。

る。ほかに

していい

る。ほかに